

第 2 期 京都文化芸術都市創生計画（案）の市民意見募集の結果について

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

平成 28 年 12 月 12 日（月）～平成 29 年 1 月 19 日（木）

(2) 御意見数

応募者数：227 人，1 団体

意見総数：341 件

(3) 御意見をいただいた方の属性

ア 居住地（人）

京都市在住	京都市外	不明	合計
144	35	48	227

イ 年齢（人）

10代	20代	30代	40代	50代
3	29	56	65	24
60代	70代	80代	不明	合計
35	2	3	10	227

ウ 性別（人）

男性	女性	不明	合計
140	71	16	227

2 御意見の内容（詳細は、別紙のとおり）

創生計画（案）に反映するもの（A）は8件、創生計画（案）に記載済又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（B）は283件、今後取組の推進に際して参考とするもの（C）は50件ありました。

（単位：件）

関連する項目	A	B	C	合計
1 計画の背景	0	1	0	1
2 基本方針について	0	3	2	5
3 4つの方向性について	8	239	32	279
方向性1 暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む	(1)	(79)	(9)	(89)
方向性2 多様な文化が根付く暮らしの中から、最高水準の文化芸術活動を花開かせる	(3)	(53)	(5)	(61)
方向性3 京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する	(0)	(59)	(16)	(75)
方向性4 様々な文化交流を推進し、京都の魅力を発信する	(4)	(48)	(2)	(54)
4 推進方法	0	10	6	16
5 総論	0	27	9	36
6 その他	0	3	1	4
合計	8	283	50	341

※（ ）内の数値は、各方向性ごとの意見数

(1) 創生計画（案）に反映するもの（8件）

- 文化庁の京都への移転は、京都の都市格を向上させるものであるが、市民ひとりひとりにとって、どのような影響や効果をもたらすものであるのかがわかりやすく伝わるようにしてほしい。（他2件）
- 文化庁のサテライトの項目に、経済団体との交流もあるとよい。
- 京都国際舞台芸術祭は、成り立ちも含めて、非常によい事業である。今後、東京オリ・パラに向けた大きな主要な文化事業として開催していくことも考えられるので、文化プログラムを進めるうえでの重要な位置付けの事業である。（他2件）
- 方向性4の「京都の文化芸術を伝える・魅せる」の中に記載されている「施策番号131 後援等による文化事業の支援」は市民の文化芸術活動を支援するものであるため、方向性1の「市民の文化芸術活動を応援する」の見出しの中に分類した方が、より分かりやすい。等

(2) 創生計画（案）に記載済又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（283件）

- 京都には、年中行事や地域での祭りなど、文化が暮らしの中にたくさん息づいている。これらを掘り起こして、光を当て受け継いでいくことが必要だ。
- 子どものうちから質の高い文化に触れることが重要であり、子どもへの教育の機会を地道に提供し続けてもらいたい。

- ・ 文化芸術に親しむ機会が、文化芸術から遠いと思われる現場で増えることで、介護や教育、子育ての質が向上したり、社会課題の解決への糸口となったりすることが期待できる。
- ・ 伝統的な文化芸術の継承や保存に力点を置くのではなく、千年後の京都に息づく文化の創造に向けて取り組んでほしい。
- ・ 京都駅の周辺エリアに新たな文化ゾーンが創出できれば都市格の更なる向上につながる。取り組むに当たっては伝統にこだわりすぎず、現代美術やマンガ・アニメなど、幅広い芸術が花開くようにしてほしい。
- ・ 文化を経済効果も見込めるものとして捉え、あらゆる分野とクロスさせて相乗効果を図ることが、京都市政に大きくプラスになる。
- ・ 文化財には至らないような京町家をはじめ、古民家、洋館、近代建築などの歴史的建築物について、幅広く支援を講じてほしい。
- ・ 若き芸術家を輩出するためにも京都市立芸術大学の移転整備を着実に進めてほしい。
- ・ 文化庁の全面的移転は、地方創生のシンボリックな出来事であり、大きく文化の立ち位置が変化していくことになる。観光等他分野と連携して経済の活性化をしていくために施策を打つことが、全国のモデルにもなりうる。
- ・ 2020年の東京オリンピックの後に、人材や文化資源が育ち、引き継がれるような仕組みづくりに努めてほしい。 等

(3) 今後取組の推進に際して参考とするもの（50件）

- ・ 計画内容が抽象的になり、具体的な取組が不十分に終わってしまわないように進めてほしい。
- ・ 事業名を含めてもう少し身近に感じられ、参加しやすいものにしてほしい。 等

3 創生計画（案）に反映する内容（資料2参照）

御意見	修正ページ	修正内容
※施策番号：市民意見募集時の番号		※施策番号：修正後冊子の番号
方向性4の「京都の文化芸術を伝える・魅せる」の中に記載されている「施策番号131 後援等による文化事業の支援」は市民の文化芸術活動を支援するものであるため、方向性1の「市民の文化芸術活動を応援する」の見出しの中に分類した方が、より分かりやすい。	22	方向性4の【京都の文化芸術を伝える・魅せる】に分類していた「131・後援等による文化事業の支援」を、 方向性1の【市民の文化芸術活動を応援する】の「46・後援等による文化事業の支援」 に修正。

御意見 ※施策番号：市民意見募集時の番号	修正ページ	修正内容 ※施策番号：修正後冊子の番号
京都国際舞台芸術祭は、成り立ちも含めて、非常によい事業である。今後、東京オリ・パラに向けた大きな主要な文化事業として開催していくことも考えられるので、文化プログラムを進めるうえでの重要な位置付けの事業である。(他2件)	26	京都国際舞台芸術祭の位置付けを推進施策から重要施策に修正。事業内容を、 「京都国際舞台芸術祭は、平成22年度から開催している京都発の国際舞台芸術フェスティバルです。京都、日本、世界の先駆的・実験的な舞台芸術を紹介するとともに、子どもの参加の促進、次世代の人材の育成や本市の重要事業との連携など、京都の未来を見据えて展開していきます。」 と追記。
文化庁のサテライトの項目に、経済団体との交流もあるとよい。	44	方向性4の「116★多様な文化活動の場における文化庁のサテライト機能（文化芸術関係者・団体の交流・連携の創出等）を果たすための取組の推進」の事業内容を、「二条城等の文化財や、京都芸術センター等の文化活動の現場を、幅広い文化芸術団体や芸術家が集い、交流する文化庁のサテライト機能（交流・連携の創出）を果たす場として活用し、 京都府・経済界との連携を図りながら、 新たな文化行政の裾野を拡大することに貢献します。」に修正。
文化庁の京都への移転は、京都の都市格を向上させるものであるが、市民ひとりひとりにとって、どのような影響や効果をもたらすものなのかのわかりやすく伝えるようにしてほしい。(他2件)	44	方向性4【文化の力で京都から地方創生を実現する】に、箱書きで、 「【京都における文化庁移転の意義】 」を追記。(京都文化芸術プログラム2020+から引用)

4 今後のスケジュール

平成29年3月上旬
3月下旬

京都文化芸術都市創生審議会から市長に答申
第2期 京都文化芸術都市創生計画策定